



全国学力・学習状況調査結果報告「前期課程」

教科に関する調査の結果

県・全国平均との比較

本校は少人数のため、「平均」という観点からのみ結果を考察し、学級全体の傾向をつかむことは難しいと考えます。児童一人ひとりの結果に目を向け、それぞれの課題を改めて確認し、学習改善や学習意欲の向上に努めていきたいと思ひます。

【本校と県・全国の平均正答率との比較表】

	県平均との比較	全国平均との比較	
国語	◎	◎	※平均を+3.0ポイント以上 ◎ 平均を0～+2.9ポイント以上 ○ 平均を0～-2.9ポイント △ 平均を-3.0ポイント以下 ▲
算数	○	△	

国語

「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、県平均、全国平均を上回る高い正答率でした。日頃から話の内容を理解しながら聞くことや、インタビューをしたり答えたりする活動など、これまでの様々な体験を通して、相手や目的、場面、状況に応じて適切に話す力が育っていると考えられます。また、ことわざや慣用句などにも慣れ親しみ適切に使える力が身に付いていると考えられます。しかし、「対象」「関心」の漢字を書くことに関しては難しかったようです。漢字はよく覚えています、同音異義語の場合、文章の中でどのような意味で使われているかを考え、正しく使い分けていく力をつけることも大事です。「読むこと」においては、全国平均を上回っています。目的に応じて文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえることができている。「書くこと」においては、複数の条件を正確に理解し、それらを満たした文章を書くことにつなげていきたいです。見直しの際にも、条件をひとつずつ照らし合わせながら丁寧に確認する習慣を身に付けられるとよいと思ひます。どの問題も全体的によくできていましたが、今後も、算数や理科、社会の学習との関連も大切にし、グラフや表の特徴を理解しながら読む力も伸ばしていくことが必要です。また、選択問題に関しては、該当しない内容を見つけ、取捨選択していくことも大事だと思ひます。既習内容や、授業、家庭学習に取り組む姿勢を継続的に大切にしながら、今後も一人一人がもっている力を伸ばしていけるよう指導していきます。

算数

①資料の特徴や傾向に関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する、②示された除法の式の意味を理解する、③示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式する問題の正答率がやや低い傾向にありました。

①については、二つの棒グラフの情報を関連付けず、どちらか片方のグラフから判断している、「人口が増えれば水の使用量は増える」という先入観から判断していると思われる理由を書いた児童が多く見られました。考察する対象となる事柄を的確に捉え、統合的に考えることを算数の授業ではもちろんのこと、学校教育全体を通して行うように意識していきます。

②については、元の式のわられる数とわる数に同じ数をかけてもわっても商は変わらないということは、ほぼ理解していることがわかりました。計算しやすいように変形した式の意味についても改めて問い直すなどして、式の意味理解を進めていこうと思ひます。

③については、問題文が長いからか、題意を十分に理解できていないと思われる回答が見られました。特に「自分の順番になって乗る」という場面を正しく想定できていないのではないかとすることも考えられます。また、問題文の中には複数の情報がちりばめられており、必要な情報のみを選び出すことができなかつたと思われる回答も見られました。長文に慣れること、その中から必要な数量を選び出すことは時間をかけてじっくり取り組む必要があると思ひます。

児童質問紙に関する調査の結果



学校生活

『人の役に立つ人間になりたいと思いますか。』に対して「当てはまる」と自信を持って回答している子が100%でした。また、『自分には、よいところがあると思いますか。』『学校のきまりを守っていますか。』『人が困っているときは、進んで助けていますか。』に対して「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」が100%でした。普段の学校生活や行事にまじめに取り組み、様々な活動を通して、友達の良さを見つけたり、支え合ったりしている結果だと思われます。今後も引き続き、お互いを認め合う場をつくり、高い自己肯定感が維持されることを願っています。一方、『いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。』に対して「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」が100%でしたが、「当てはまる」と自信を持って回答している子が66%程度でした。子供たちなりの感情、思い、事情などがあるかもしれませんが、いじめは絶対に許されないこと、そのような感情が生まれた時にどのように行動すればよいのかを指導し続けていきます。



学 習

『学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。』に対して、「1時間以上、2時間より少ない」が100%でした。家庭で、学校から出された宿題や課題、自主学习などに、まじめに取り組んでいることの表れです。これは、声かけ、励ましなどの支援が大きいものと思われます。ご協力ありがとうございます。1時間未満がまったくくないのは、素晴らしいことですが、2時間以上が全国・県平均の30%弱に対して、本校は0%でした。また、読書が好きな割合が、全国・県平均が75%程度に対して、本校は60%弱でした。30分以上の読書時間や図書室に行く回数は、全国・県平均より高くなっていますので、今後、興味のある教科や分野について、さらに深めようとする意欲が出てくる姿を期待します。『コンピュータなどICTをほぼ毎日授業で使用している。』に対して、全国・県平均がわずか10%ですが、本校は40%を超えています。これからも、知的好奇心をさらに高める授業づくりを目指していきます。

『国語の勉強は大切だと思いますか。』『算数の勉強は大切だと思いますか。』『算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。』に対して、肯定的な回答が100%でした。また、教科に対する好感度、授業で学んだことを活用しようとする気持ち、授業に対する意欲についての質問も、全国・県平均より高い結果となりました。一方で、国語や算数に苦手意識を感じたり、授業の内容がよく分からないと回答したりする子も割合的には低いですが存在しますので、TTなど、個に応じた支援をこれからも充実させていきます。

保護者・地域

『今住んでいる地域の行事に参加していますか。』に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる。」が100%、『地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。』に対しての肯定的な回答が、全国・県平均約50%に対して本校は80%強でした。本校の児童生徒が、地域社会と関わり、地域に支えられて学び、地域のことを考えていることをうれしく思います。また、『外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思っていますか。』『日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人に知ってもらいたいと思いますか。』に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる。」の回答がいずれも100%でした。国際的な広い視野を持って生活している様子うかがえます。

朝食の摂取、就寝時刻、起床時刻に関する質問では、いずれも良好な回答が90%を超えており、正しい生活習慣がほぼ定着していることがわかりました。家庭での規則正しい生活習慣が身につけていると、エネルギーを蓄え、学校でも元気に、落ち着いた生活を送り、授業に集中して臨むことができます。引き続き、よろしく願います。